

携帯ショップ ジョウ★サイ

イジン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

携帯ショップ。

人によって携帯を持つ理由は様々だろう。

他の人とすぐ連絡を取りたい、家族にもたせたい、仕事で必要……等。他にも色々な理由があるはず。

そんな願い、“ジョウ★サイ”が全て叶えます！

主人公はあくまでヨークシン出身の念能力者です。

※ただし、携帯を作成しているのは日本からの転生者です。

目次

第1話	プロローグ	1
第2話	機種って何があるの？	4
第3話	音楽をよく聞くんですが、どんな機種がおススメ？	6
第4話	この機種は防水ですか？	9
第5話	「故障でございますね。ただ今待ち時間が2時間となっております」	15

第1話 プロローグ

「君の能力を僕らのために使ってくれないかな」

「……あの、勘違いされているようなので訂正させてください」

「なんだい？」

「私はこの携帯の製作者ではありませんよ」

またこのパターンかと、カウンターにドヤ顔で座るパロツキーノファミリー次期総長を可哀想な目で見てしまう。

それがいけなかったのだろう。

今までの紳士的な態度はなんだったのか。意味のわからない言葉を唾とともに吐き散らしている。

この後ご予約のお客様もいるのになあ……困ったなあ……

「お客様落ち着かれてください」

「ふざka\$#^、まじ舐めてつと殺すぞオラアア！ああつ!？」

「気を悪くされたのなら申し訳ございません。ですが、この携帯の素晴らしいさはお客様が1日体験された通り。

いかがでしょうか？このまま永遠にお客様の生活をサポートさせていただきますだけませんか？」

「ふあけんなあ！こ、この俺に恥をかかせやがって!!ただですむと思うなよ!?!組の奴らで店ごと潰してやつからな!!今すぐ呼んでやる!!!」

「……………はあ。では……貴方はお客様ではありません」

私が魔法の言葉をつぶやくと、椅子ごと消えた。

また椅子買わなきゃ……経費で落ちるといいんだけど。

最近評判が上がりと同時にこういうお客様じゃない人間も増えている。

ちゃんとサイトに書いたのに…ちゃんと調べてから予約して欲しいよ、本当。

おつと電話だ。

「はい。ジヨウ★サイ、ヨークシン店、ミドリが承ります」

『あつやつと繋がった。俺一時間もまたされたんだけど』

大変申し訳ない。けれど、こればかりはスタッフ私だけしかないから諦めてほしい。

「申し訳ございません…スタッフの手が足りない為ご迷惑お掛けいたします」

『いや。んで、ちよつと聞きたいんだけど。ここのサイトにある“ハンター専用携帯。カスタム自由！一日体験キット送ります”ってあるじゃん。これはタダなわけ？』

「仰るとおりです」

『何か制限とか制約とかあるの？ハンター専用って唄うくらいなら念なんでしょ？』

「ご心配最も。基本的にお客様に害のあることはございませんが、一日立つとすぐに消えてしまうというのと、除念されてしまうと携帯自体消失してしまうのに注意が必要かと」

『そつかく。まあ試してみるね。ありがと』

「こちらこそ、お問い合わせありがとうございます」

電話を切り、充電台に戻してふと思う。

契約した番号からしかお店の番号掛けられないんだけど……

しかし相手側で番号が残らないようオプションをつけていた場合、どんな手段であろうとそれを見ることはお店側では不可能に近い。

今も新しい携帯を制作しているオーナーを、こんな事で煩わせたくはない。

でも一応メモには控えておこう。

さて、気分を切り替えてご予約のお客様を迎えに行こう。

第二話 機種って何があるの？

用語紹介。(作者の主観)

ガラパゴス携帯(ガラケー)

パカパカ式やスライド式など様々な形状の携帯。

キーボードはすべてボタン。

アンテナを取り付けたリ、もともとアンテナがついていたりと本当に様々な種類があり、見るだけで楽しい。

スマートフォン(スマホ)

一つ一つに特徴はあるが、基本的には四角い板のような形状の携帯。

キーボードから設定まで、殆どのことを画面をタッチして操作をします。

ホームボタン、と呼ばれるなどの作業をしていてもすぐに待ち受けに戻れるボタンがついている機種が初心者の方にはオススメ。

現在出ているのはAndroidとiPhoneと呼ばれ区別されませんが、そこは更なる説明が必要となりますので割愛いたします。

タブレット

簡単に言えば板型コンピューターです。

スマホを大きくした、とも取れてしましますがタブレットで出来ることはスマホより幅広く、仕事や子育てに役立てることも可能です。

私はiPad●dを利用しております。下手なノートパソコンよりも性能がよく、Word、Excel(Word、Excelは書類を作ったり計算したりするものです)が手軽に使えます。

現在ジョウ★サイでは

”ジヨウ★サイ初心者割!”というのを行っております。

今までボタンを押すタイプのガラパゴス携帯、及び、ほかのシヨツプで売られていた携帯をお使いのお客様がジヨウ★サイオリジナル機種に変更する際の割引となります。

この割引は一月だけの期間限定で、発表後たくさんのお客様からお問い合わせがあり、今月だけで契約件数は200件を超えております。

お客様の笑顔だけであと一月乗り切ります。死にそうです。

因みに私はガラパゴス携帯型とタブレットの併用しております。ガラパゴス携帯ですと、小型で持ち運び安く、うちで契約していただとスマホ用のプランより安いんですよね。やっぱり安くて使いやすくてずっと手放せませんよねっ!って誰に語ってんだ。疲れる休みたいよう……

い、いけません!弱音を吐いちゃダメ!オーナーの為に頑張るって決めたでしょう?頑張れ私!!

二日連続クレーマー(人外)の相手をさせられている件について。なんで誰も彼も一言目が「俺の為に力を使え」なの?馬鹿なの?人を勧誘する時は必ず「俺の為に力を使え」から始めましょうって優しい先生に教えて貰っちゃったりしたの?馬鹿なの?

携帯の評判と一緒に、勧誘したら吹き飛ばされるっていう噂も一緒に流して欲しい。

…さて。次のお客様はどうかいい人でありますようにっ!!

とんだ先が廃墟でした。何故?

第3話 音楽をよく聞くんですが、どんな機種がおススメ？

「それではお客様にぴったりの機種をいくつか提案させていただきますので、いくつかご質問させていただけますか？」

「断る。俺の質問に答える以外口を開くな」

お客様？それでは契約出来ませんよ。

とは流石に銃を突きつけられた状態では言えませんでした。

か弱い私をお許しください。給料は下げないでくださいオーナー。

今もこの様子を見ているかもしれないと思うと一瞬でも気をぬくわけにはいかない。

とりあえず無言で資料の用意でもしよう。

「勝手に動くな」

「…しかし」

「その板からは微弱だが念の気配がする怪しい動きをするなら今すぐ殺す」

板つてお客様……。

うん。なんとなくだけどこのお客様のことがつかめてきたかもしれない。

ジツと私の出した板…もといタブレットを興味津々に、そして懐疑的に見ているお客様。

彼は携帯のみならず電化製品に関りが少なく、自分を機械音痴だと言いつつ拒否反応を示している。

これは私の持論であるが、素手で機械に触れると壊してしまう人以外は真の意味での機械音痴では無い。

覚えられない、という人がいますが、例えばの話、車の運転はどう覚えるだろう？教習所に通い、運転していればそれなりに上達するの

ではないでしょうか？

それと同じで携帯には定められた手順があり、毎日弄るような意識すれば覚え無い方が難しいと言わせていただきたい……なんて言ったら怒られるでしょうか？私もオーナーのレッスンで覚えた口なのでなんとも言えないですよ。受け売りです。

『ほとんど電話しかしないけど、あんたんとこの携帯は便利やからなあ』なんて、新しい機能が增えるたびに追加してくれる初期ユーザーのお婆ちやまは全力でサポートしてあげたい大切なお客様です。

逆に『俺が何年使つてると思つてんだよ！調べりやわかるだろ』とかいう古参ぶつてて対して使つていない人とか、怒つて椅子を蹴ったり、お酒を飲みながら店舗に来るようなお客様はもうお客様じゃない。うん。というか使つて欲しいなんて一言も頼んでないから……あれ。ごめんなさい話聞いてませんでした。

「おい。よくわからないぞ。これらは何が違うんだ？全部同じにしか思えん」

「俺、恥ずかしくなつてきた……ねえ君。とりあえず丈夫で水濡れオーケーでどこにいても電波の届く機種つてどれ？」

「…はい。ネテロ会長レベルの念能力使い以外の攻撃に耐えられる機種としては、このTタイプのみです。強化系以外に耐えられる機種はGタイプとXタイプです。他のタイプは念能力者を想定して作られていませんので、比べてしまうとどうしても耐久度は弱くなつてしまいます。電波の点で言えば、エリアの範囲をオプションで変更できますのでどの機種でも問題ございません」

「だつてさ」

「今のは呪文か。俺に魔術でもかけるつもりか」

「もう団長は黙つてれば？俺が決める。つてか俺が欲しいんだけど」

「あつ。大変申し訳ないのですが…契約数は予約順で定められていて、登録がかけられないようになってるんです。キャンセルでもあれば可能ですが」

「じゃあ団長のキャンセルにしよう」

「シヤル。それじゃあ本末転倒だろう。あんたはいっぱい持つてんだ

から我慢しな」

いつの間にか周りからかかるプレッシャーが減っている。向けられていた針のような殺気は緩やかになっていて、とつても安心。でも許可なく喋るのはやめておこう。こういうタイプはどこが琴線なのか分からない。

今真剣にパンフレットを見比べているお客様…団長様？

ですが、携帯の良さというのはパンフレットだけでは分かりません。

勝手に動けるのであれば今この瞬間にサンプル品を出したいのですが、許可が必要なので困ってしまいます。

じつと見つめていると言いつ争っていたうち、金髪の方がようやく気がついてくれました。

「ん？なに？」

私はあまりでしゃばらないよう、下手に伺います。

「よろしければ実物のサンプルがございしますので、取り出してもよろしいでしょうか？」

「うん。全部出して見せて」

「かしこまりました」

制服のポケットから一つづつ取り出し、並べる。並べる時のポイントとして、おススメしたい商品をお客様の利き手側に並べると効果的だそうです。一番最初に手に取ったスマートフォンというのは印象に残りやすいんだそうです。

オーナーからは値段の高い順番に並べるように言われていますが、正直この方にはあまり良い機種よりも手頃な値段の簡単操作スマートフォンの方がいいと思います。

その中で一番重視したい機能が特徴の機種を推したいところですが…：プライドの高そうな方なので多分他の人から薦められると気持ちよく買ってもらえない、と。

なんて面…難しいお客様なのでしょう。

第四話 この機種は防水ですか？

「防水って言ったわよね!? 放置したら壊れたんですけどっ!!」

「…どんな携帯でも水に濡らして放置したら壊れますよ」

「はあ!? 防水って、水を防御するのよね!?」

他のお客様の対応中。お店に乗り込んできたのはジョウ★サイのお得意様であるジン様のご紹介で先月ご契約されたピヨン様。ぴよんぴよんうさ耳をはねさせながら怒る仕草はとても可愛らしいが、身のうちからあふれるオーラのせいで店内の空気が非常に悪い。

これは最終手段を使うか。

「ピヨン様。お話は分かりましたが、今は私がふさがっておりますしてVIPルームにてお待ちいただけますか?」

「はあ!? 私は今すぐ使いたいんだし!」

「お気持ち、よく分かります。しかし、VIPルームにはこの世界で誰も知らない情報があふれているそうですよ」

「……誰も知らない?」

「ええ! オーナーが全力で作った“ぶういあーる”という技術が使われているようで、嵌りすぎ危険、と私の立ち入りも許さない徹底っぷりです」

「一時間だけ待ってあげる!!」

ではご案内。

VIPルームの扉を開くと一目散に駆け込んで行くピヨン様。

ふふっ、とお客様……エレナ様が思わずといったように微笑む。

私も苦笑を返して、失礼しました。と頭を下げる。

「ねえ、教えて」

「はい、何でしょう」

「私がこれから買う機種に永遠の防水をつけたらいくらかかるの?」

「エレナ様の機種は遠くにいる相手にもクリアな音で通話ができるように、と作られた機種です。」

無理矢理その機能を付け足せば…オーナーは無理とは言わないでしょうが、月にかかる金額は国家予算レベルになってしまいます」

「じゃああの子には?」

「あの方はお試しで気に入った機種にされたいとのことでしたから」

言外に安い機種なのだ、と告げるとエレナ様は『勿体無いわね』と
またも素敵な笑顔で微笑まれた。

安い機種でいい。

何でもいい。

見た目がいいからこれにする。

電話しかしない。

実はそれはかなり勿体無いということに、気づいてない人が多い。

そりゃ、世の中には破滅的な機械音痴さんがいらっしやる。

そういう方はもう絶対に壊れない子供ケータイを持つしかない。

(今だけ基本料500ゼニー期間中!!!)

けれどケータイというのは誰かと電話するためだけの機械ではない。
いい。

それが欲しいならばジョウ★サイケータイにする意味がない。

例えばうちのスマートフォンの中に、Uシリーズという機種がある。

この機種最大の特徴は、自分の趣味をメインに中身を決めれるという点。

例えば読書が趣味ならば、世界中の図書館のフリーパスのページが元々内蔵されていたり、

知らない土地でもマップを開けば近くの本屋にチェックがつく。

例えば動物を飼っているならば、ジョウ★サイ動物語の翻訳アプリ。

勿論全ての動物というわけではなく、色々制約はある。でもペットと会話ができるのは飼い主の夢だろう。

このように、持ち主の夢を叶えるのが携帯電話。すなわちジヨウ★サイケータイなのだ!!

最近の変わったリクエストだと『空を飛びたい』ですね。

オーナー大爆笑で作っていました。

エレナ様の機種改造が終わったとの連絡と共に私の手元に現れる携帯。

きっかり1時間で仕上げられたA A A特別モデル^{トリプルエー}。

サイズは片手で操作できるサイズ。色は透き通るピンクゴールド。

中身の性能もさることながら、外装は全て砕いた宝石を念で溶接し研磨した見た目も珍しくあのオーナーがこだわった一品。

エレナ様はこの機種の大ファンで、もう4年以上この機種を使っているらしいやいます。

事あるごとにオーナーにA A Aの新機種の催促をしていますが、オーナーは『まだ無理』の一点張り。

何が無理なのかは、本人にしかわからない。

「ありがとうございます。また来る。新機種早く、と伝えて」

「はい。お時間ありがとうございます！またのご来店お待ちしております。ります」

「ん。今度ご飯も行く」

ぺこりと頭を下げると撫でられる。

今は接客モードだと言うのに嬉しくて、営業スマイルが崩れてしま

さて。

実はピヨン様が来店されてから5時間経過しています。
もう閉店の時刻ですのでお帰りいただかなくてはなりません。

私はカウンターの裏にあるVIPルームの、ぶういあーるの電源を
落としました。

10秒後、泣きながらピヨン様が部屋から出てきました。なんて
こった想定外。

「ピ、ピヨン様？いかがされましたか？」

「きゅ、急に電源落ちちゃったのっ！ピヨン何もしてないのに……っ。
い、一時間のつもりが、いっばいやったから？だから壊れちゃったの
？」

耳をたれ下げ子どものように泣くピヨン様。

あつ、あつ、どうしましょう。

（オーナーオーナー！緊急事態ですっ！）

（……ん？珍しいね。お前が緊急回線を使うなんて。何？宇宙人でも
来た？）

（故障でクレームのお客様をVIPに案内して、いつも通り遊んでも
らって電源切ったら……大泣きです！）

（うん。俺には無理）

切られました。

許すまじ。

「ご、ご安心下さいピヨン様！見たところ、長時間利用による一時的な
フリーズだと思われます！暫くさめるのを待つて強制再起動をすれ
ば大丈夫ですよ!!」

「……本当？本当にピヨン壊してないの？」

潤んだ瞳に罪悪感がズキズキと痛みます。

ジヨウ★サイオリジナルキャラクター、

ジヨウ君のクリアファイルやヌイグルミを渡すと、なんとかかんとか泣き止んでくれました。

「今日は代用機お貸出し致しますので、明日には修理してご連絡いたしますね」

「うん！……こつて本当に凄いいお店だね！……あつてもでも、データはどうなるの？消えたら困るんだけど」

出た。自分で壊しておいてデータが戻るのが当たり前と思っ
いらつしやるタイプ。

もちろん顔には出さず、私は悲しそうに目を伏せる。

「残念ながら……こちらの機種の操作ができないとバックアップは取れないんです」

「そんなあ!!…ジヨ、ジヨウ★サイでもどうにもならないの!？」

「オーナーの方針でして『そんなに大事なら定期的にバックアップしとけ』だそうです」

壊したらデータは消える。

便利な物にはリスクが付きまとうのはどんなものでも変わりありません。念は決して万能ではない。

「そ、そうだけどさあああ！やり方分かんないだもんっ！」

「説明書にも、ジヨウ★サイサイトにも、契約の際にもご案内は」

「口で言われただけじゃ……うん。でも、私が悪いんだもんね……分かったよう」

「……ふふっ。ピオン様は素敵な方ですね。修理の際にバックアップ方法もご案内させていただきます。是非これからも、よろしくお願い致します！」

「うん」

私はピオン様の目を見て、意識してゆっくり微笑む。

「もし分からないことがあればすぐにご連絡下さい。対応できる私がいれば、すぐに派遣させていただきます」

「……分かったよう。これからもよろしくね？」

「すぐに代用機お持ちします……あつ！それと、近々新機種発売に伴い、事前予約で“ぶういあーる”が10台限定無料でプレゼントさせていただきます、と、これはピヨン様にだけ特別にお伝えしているの
で。内緒にしてくださいね？」

「今すぐ予約する!!!」

まああと数時間後にはジョウ★サイ携帯をお使いのお客様全員に通知が行くわけですが。ひいき、だなんて店員としては落第点かもしれませんが、落胆して帰っていたくよりは喜んで帰っていただくのが携帯ショップ店員の役割。

スキップしながら店外へ繋がる扉を開く背中に一礼。

「ありがとうございました！」

第5話「故障でございませぬ。ただ今待ち時間が2時間となっております」

『悪っ。壊れた』

電話口でそんなふざけたことを抜かす馬鹿を俺は一人しか知らない。いや、名前と顔しかしらんけれども。

俺の名前をこの世：大人気ファンタジーバトル漫画（作者が生きてる間に完結の見込無し）作品：で知っていいのは一人だけ。姿形を見ていいのも一人だけ。そんな条件で強制転移させられた俺は、転移先でモブキャラに出会っちゃってお先真っ暗。かわいそうな俺。まさかの異世界で幼女かよ。たいして可愛くないし。マチ呼んで来い。そう思ったものの教育すればそれなりに使える人間になったのでよしとしよう。

あいつに店のことは放り投げて、理想の携帯を作る日々は正直最高。

新しいものだけを追い求める。そんな俺にこの仕打ち。

壊れないようにがちがちにしたのに、このアホくそ甲斐性なしクズは月1ペースで壊しやがる。

修理とか俺が一番嫌いな言葉なんですけど。もう急所に盾として携帯いれんのやめて死んで。いや冗談抜き。

『行くの無理だからミドリ派遣してくれ』

「今あいつ空いてないですよお客様くたばれ」

『いや一人くらい空いてるだろ？それが取柄じゃん』

「ミドリのことミニドラ扱いやめろ」

『はっ。』

「あんでもふあい」

ドラ焼きのないこの世界に絶望して早急に和菓子を広めたかがある美味さ。

流石グルメハンター。こいつには次サービスしてやろう。だがしかしジンお前はダメだ。

「今どこにいるんですかね放浪野郎」

『パドキア』

「本当くたばれ。データは」

『何とかしてくれ』

「さようなら」

ジンの番号と名前で検索をかけると、確かに現在地はパドキアと出ている。そんな危険地帯にミドリを行かせる訳がないだろボケカス。ミドリが死んだら俺が困るだろうが。

しかも危険信号が出る。

「おい。バッテリーに穴空いてんだろ。捨てろ」

『捨てたらデータ！おわっ』

「じゃあ今すぐ凍らせるかなんかしろ。燃えるぞ」

『は？なんで？』

「バッテリーに穴を開けたら燃えるという常識を知らない素人はマジでクソ。あつ口から全部出た。まあいいか」

『おい！なんか知らんが馬鹿にすんな！』

自分ができないことは他の人にやらせよう。その姿勢は買うし、評価に値するけど、できないと決めつけるのはやってからにしてくださいと思うのは俺だけでしょうか。いいえ誰でも。

ジンだってバックアップができない訳じゃない。

ただ毎日やるとは面倒って放置するからこんなことになるんだろ
うがボケ。携帯つてのは精密機械なんだぞ。故障しない携帯なんかない。いやまあこの世界なら作れなくはないかもしれないけど……
それだって”念”っていうチートのおかげ。俺以上のチートで壊される可能性は十分にある。

「……しゃーね。会長の予約ブチらせるわ。クレーム？知りません

ねえって感じで」

『マジ？それ俺が泥かぶるやつじゃねーの』

「文句言うな。金は全部お前持ちだからな？俺とミドリは一銭も出さねえからよろしくな」

『おう。じゃ』

「ん。二日我慢しろ」

新しい携帯より修理の方が難しい。

故障の原因がどこにあるか解体して調べないといけないし、直した後の動作確認もしないといけないし、あいつの機種解体するの大変なんだよな。今は春の新機種作るのに忙しいのに余計な仕事増やされた感が凄い。でも俺以外直せないし。てか俺の携帯に触らせたくないし。教えないし。直すなって感じ。念能力は除く。

お店で客と仲よさそうに接客を楽しんでいるミドリへ内線飛ばす。

(おくいミドエモン。明日の会長の仕事キャンセルな〜)

(ええっ!?そんなあ大口の仕事が……)

(代わりにパドキア行ってジンの携帯回収してこい。無事に帰ってきたらハンバーガー爆誕記念とお前の生還を祝おうな。ハンバーガーで)

(え？ハンバーガー？私の命ハンバーガーと同価値？しかも買ってくるの私ですよね!?)

(パドキアでは買うなよ。あそこの料理は料理じゃねえから)

(てゆーか接客中にやめてもらえます？集中できないから!)

俺のミドリが冷たい。

俺上司なのに、泣いちやう。泣かないけど。

……あつ。次の新機種農業系にしよう。絶対面白い。